（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	第２パレット			
○保護者評価実施期間	令和8年2月2日		～	令和8年2月13日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	16名	（回答者数）	14名
○従業者評価実施期間	令和8年2月2日		～	令和8年2月13日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	8名	（回答者数）	7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月5日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・個別支援計画策定やモニタリングの際は、児童発達支援管理責任者だけでなく、利用者支援に関わるスタッフが共通理解のもとで作成にかかわっている。	・常勤非常勤関係なく広く意見を求め、個別支援契約やモニタリングを作成している。忌憚のない意見交換ができており、共通理解に役立っている。	・コロナウイルスによるパンデミックから全員を対象とした面談を中止し、書面や必要に応じて電話等により聞き取りをしているが、相互の信頼関係を深めるためにも面談の再開を検討したい。
2	・利用者や家族から苦情や相談が寄せられた際、対応する体制を整備している。実際に苦情や相談が発生した場合は迅速かつ適切に対応している。	・苦情解決担当者を決め事業所に掲示するとともに、契約の際苦情解決体制や事業所以外の相談先について説明をしている。 ・苦情や相談が寄せられた場合に発生内容や経過を記録表にまとめ、スタッフ間で情報共有し再発防止に努めている。 ・法人全体で情報を共有できるよう、所属事業所以外にも苦情相談記録を開示し、共通理解を図っている。	・契約から年月が経つと苦情対応について説明した記憶が保護者の中で薄れてくることが懸念されたり、相談したいが事業所への遠慮があったりする場合があると思われるので、ホームページを通じて苦情管理体制についてお知らせする。
3	・事前に服薬やてんかん発作等状況を把握してから受け入れをしている。	・事前に服薬状況やてんかん発作の有無などを確認し、スタッフに周知したうえで利用を開始している。 ・服薬状況などは変わることもあるので年に一度「緊急時連絡シート」を保護者に記入していただき、変更がないか確認するとともに、万が一の時に「緊急時連絡シート」を救急隊員へ渡し迅速な対応が取れるよう体制を整えている。	・「緊急時連絡シート」の内容について精査するとともに、個人情報も含まれるので適切な取り扱いについて共通理解を図る。 ・利用者に異変を感じた時は些細なことでも周囲のスタッフに伝え、相談体制が確実に取れるようにする。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保護者向け評価表にて保護者の意向を把握する機会を設けているが、内容を業務改善に繋げることが弱い。	・保護者向け評価表の分析結果や事業所における自己評価結果をホームページに載せているが、周知が足りていない。	・スタッフ会議にて結果を伝え、スタッフ間で意見交換し改善に繋げていく。
2	・利用定員や子供の状態等に対し、日によって職員が不足していると感じる場合がある。	・下校時間がばらばらな上に複数の学校へお迎えに行くため、スタッフ全員が揃うまで時間がかかり、手薄になる時間帯がある。	・国の基準は満たしているが、手厚い支援を必要とする利用者が多く、人手不足を感じてしまうことがあるため、スタッフ増員による人手不足の解消を図る。
3	・家族に対してペアレントトレーニングや家族等の参加できる研修の機会や情報提供ができていない。	・ペアレントトレーニングを実施できる人材がいない。 ・家族向け研修会や相談会の案内を事業所内に掲示しているが、配布まではしていない。	・富里市の協力を得て、アスペエルデの会が認定するペアレントプログラムの指導者資格を今年度スタッフが取得したので、将来、家族へ向けてペアレントプログラムを実施できるようブラッシュアップする。 ・八街市や富里市から自立支援協議会を通じて家族向け相談会の案内を受け取ったら印刷し、連絡帳袋に入れて情報提供して行く。